

国際政治経済学

本講義は、国際社会の問題に、理論・歴史・政策の三つの側面からアプローチすることで、現代社会を多角的に見る方法を学びます。



現代の国際社会は、政治や経済などの多様な要因が複雑にからみ合い、ますますその不安定さを増し続けています。特にポスト冷戦期以降は、国際政治経済の分野に関する諸課題について分かりやすい構図で捉え、説明することが極めて困難となっています。

本講義では、この不安定な国際社会を読み解くために必要となる基本的概念や理論について学びます。特に、リアリズム、リベラリズム、アイデンティティの三つの視点から検討します。ネオリアリズム・ネオリベラリズムは、国際公共財理論に基づいて覇権安定と国際レジームの安定化を正当化しています。アイデンティティ視点としては、アイデア、規範、ルールが国際関係において重要な役割を果たすとするコンストラクティビズムと、多くのアクターから構成されたアナキーな社会を提示するイングリッシュ・スクールについての考え方を扱います。

さらに、世界各地で実際に起きた紛争や気候問題、経済対策等の国際政治経済に関するケーススタディを通じて、これらの知見を使って分析・評価する視点を身につけます。

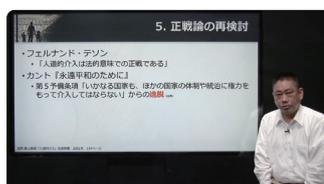
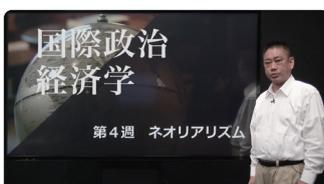
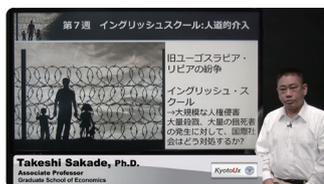
開講日 2018年5月10日(木)

開講期間 7週間

講師 坂出 健 准教授
京都大学大学院経済学研究科



- 第1週 講義の紹介
- 第2週 リアリズム
- 第3週 リベラリズム
- 第4週 ネオリアリズム
- 第5週 ネオリベラリズム
- 第6週 コンストラクティビズム
- 第7週 イングリッシュ・スクール



<https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp>